

『平成30年度修士課程第1次(筆記)試験合格者に対する提出課題』

〔言語情報科学専攻 超域文化科学専攻〕
〔地域文化研究専攻 国際社会科学専攻〕

1. 提出課題は、一般出願者、社会人特別選拔出願者、外国人出願者で異なっている。下記【専攻(分野)別提出課題一覧表】により、指定された課題(コピーでも可)を提出すること。
2. 論文、論文要旨を提出する場合は、表紙に本研究科所定の添付票(この冊子に綴じ込んである)を必ず貼付し、その他の提出書類等については、表紙に提出書類等の標題(研究計画書等)、志望専攻(分野)名、受験番号及び氏名を必ず記載すること。論文はしっかり綴じること。
3. 口述試験の際に、提出論文のコピーを持参すること。
4. 提出期間
 - (1)提出は、郵送(書留速達郵便)に限る。なお、下記期限までに論文等を提出できない場合は、受験を辞退する旨を本研究科事務部まで連絡すること。また、提出された論文等は返却しない。
 - (2)郵送にあたっては、必ず郵便局で「書留速達郵便」と指定して送り、封筒の表に志望専攻(分野)名、受験番号及び氏名を明記すること。
 - (3)受付期間 平成30年1月26日(金)から1月30日(火)まで
(平成30年1月31日(水)以降に到着したものについては、1月30日(火)までの消印のあるものに限り有効とする。)
 - (4)あて先 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科事務部教務課総合文化大学院係
電話 03-5454-6050(6049)

【専攻(分野)別提出課題一覧表】

言語情報科学専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1 『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、卒業論文又はそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること(すべてコピーでよい)。</p> <p>2 上記1以外の者は、文学、言語学、記号論、言語哲学、言語教育、コミュニケーション論、言語情報処理等、広義の言語現象に関して作成した論文1点を3部提出すること(コピーでよい)。</p> <p>3 『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も、日本語による要旨を3部添えて提出すること。</p> <p>4 『研究計画書』 上記1、2、3以外に、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ左記2に該当する場合、日本語、中国語あるいは韓国朝鮮語による論文は、A4判用紙12,000～32,000字程度とし、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語による論文は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)20～50枚程度とする。</p> <p>ロ要旨は、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p> <p>ハ左記4の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1 『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べたものを3部提出すること。その際、自分の問題意識が社会における経験とどのような関係にあるのか、また、大学院における研究成果を職業等、今後の社会生活にどのように還元することが可能であるかについての展望も付け加えること。</p> <p>2 『論文』 上記1以外に、広義の言語現象に関して作成した論文を1点につき3部ずつ提出すること(3点以内とする)。</p> <p>3 『論文要旨』 上記2の論文について、日本語による要旨を1点につき3部ずつ提出すること。</p>	<p>イ左記1の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p> <p>ロ左記2の論文は、日本語に換算して原稿用紙20枚(8,000字)以上のものとする。</p> <p>ハ要旨は、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
外国人出願者	<p>1 『研究計画書』 大学でこれまでどのような研究を行ってきたかを述べた上で、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べたものを3部提出すること。また、大学院における研究成果を将来どのように生かすことが可能であるかについての展望も付け加えること。</p> <p>2 『論文』 上記1以外に、広義の言語現象に関して作成した論文を1点につき3部ずつ提出すること(3点以内とする)。</p> <p>3 『論文要旨』 上記2の論文について、日本語による要旨を1点につき3部ずつ提出すること。</p>	<p>イ左記1の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p> <p>ロ左記2の論文は、日本語に換算して原稿用紙20枚(8,000字)以上のものとする。</p> <p>ハ要旨は、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>

超域文化科学(表象文化論)専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、広義の芸術表象を中心とした表象文化論に関係する卒業論文又はそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること。</p> <p>2上記1以外の者は、広義の芸術表象を中心とした表象文化論に関係する論文を3部提出すること。</p> <p>3『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も、論文が日本語の場合は外国語による要旨を3部、論文が外国語の場合は日本語による要旨を3部提出すること。</p> <p>4『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に記したものを3部提出すること。</p>	<p>イ左記2に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用言語：日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語のいずれかによるものとする。 ・分量：日本語および中国語による論文の場合は12,000～20,000字程度、その他の欧文による場合は、タイプまたはワープロによりA4判用紙(1枚25行)30枚程度とする。 ・なお、上記の制限は注を含む数字であり、図表や参考文献リスト等は含まない。 <p>ロ左記3『論文要旨』について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語による要旨は、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語のいずれかによるものとする。 ・欧文の場合、タイプまたはワープロによりA4判用紙(1枚25行)3～5枚程度にまとめる。 ・日本語および中国語による要旨は、A4判用紙を使用し、2,000字程度にまとめる。 <p>ハ左記4の研究計画書は、日本語でA4判用紙を使用し、1,200字程度とする。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題を、表象文化論的観点に立って論文にまとめたものを3部提出すること。</p> <p>2『論文要旨』 日本語による要旨(1,200字程度)3部を提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べたものを3部提出すること。その際、自分の問題意識が社会における経験とどのような関係にあるのか、また、大学院における研究成果を職業等、今後の社会生活にどのように還元することが可能であるかについての展望も付け加えること。</p>	<p>イ左記1の論文について、使用言語は、日本語あるいは英語とし、日本語の場合は12,000～20,000字程度、英語の場合はA4判用紙(1枚25行)30枚程度とする。なお、この制限は注を含む数字であり、図表や参考文献リスト等は含まない。</p> <p>ロ左記3の研究計画書は、日本語でA4判用紙を使用し、1,600字程度とする。</p>
外国人出願者	<p>1『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、広義の芸術表象を中心とした表象文化論に関係する卒業論文又はそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること。</p> <p>2上記1以外の者は、広義の芸術表象を中心とした表象文化論に関係する論文を3部提出すること。</p> <p>3『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も、論文が日本語の場合は外国語による要旨を3部、論文が外国語の場合は日本語による要旨を3部提出すること。</p> <p>4『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に記したものを3部提出すること。</p>	<p>イ左記2に該当する場合は、日本語あるいは中国語による論文は、8,000～12,000字程度とし、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語による論文は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行)30枚程度とする。なお、この字数・枚数制限は注を含む数字であり、図表や参考文献リスト等は含まない。</p> <p>ロ外国語による要旨は、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、中国語、イタリア語、スペイン語のいずれかとし、欧文の要旨は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行)3～5枚程度、日本語及び中国語の要旨は、A4判用紙を使用し、2,000字程度とする。</p> <p>ハ左記4の研究計画書は、日本語でA4判用紙を使用し、1,200字程度とする。</p>

超域文化科学(文化人類学)専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1 『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、文化人類学またはそれに隣接する領域の卒業論文、あるいはそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること。ただし、使用言語は日本語か英語に限る。</p> <p>2 上記1以外の者は、現在関心を持っている研究課題に関して、文化人類学的観点に立って執筆した論文を3部提出すること。ただし、使用言語は日本語か英語に限る。</p> <p>3 『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も日本語による要旨(2,000字程度)3部を添えて提出すること。</p> <p>4 『研究計画書』 大学院入学後、修士課程在学中の研究計画を具体的に記したものを3部提出すること。</p>	<p>イ左記2に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の場合：本文、注 ワープロまたは手書き、28,000字程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 ・英語の場合：本文、注 ワープロまたはタイプうち、7,000語程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 <p>ロ左記4の研究計画書は、日本語あるいは英語でA4判用紙1枚(片面)にまとめること。書式は特に指定しない。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1 『論文』 現在関心を持っている研究課題に関して、文化人類学的観点に立って執筆した論文を3部提出すること。</p> <p>2 『論文要旨』 日本語による要旨(2,000字程度)3部を添えて提出すること。</p> <p>3 『研究計画書』 大学院入学後、修士課程在学中の研究計画を具体的に記したものを3部提出すること。その際、自分の問題意識が社会における経験とどのような関係にあるのか、また大学院における研究成果を職業等、今後の社会生活にどのように還元することが可能であるかについての展望も付け加えること。</p>	<p>イ左記1に該当する論文について</p> <p>使用言語：日本語あるいは英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の場合：本文、注 ワープロまたは手書き、20,000字程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 ・英語の場合：本文、注 ワープロまたはタイプうち、5,000語程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 <p>ロ左記3の研究計画書は、日本語あるいは英語でA4判用紙1枚(片面)にまとめること。書式は特に指定しない。</p>
外国人出願者	<p>1 『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、文化人類学またはそれに隣接する領域の卒業論文、あるいはそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること。ただし、使用言語は日本語か英語に限る。</p> <p>2 上記1以外の者は、現在関心を持っている研究課題に関して、文化人類学的観点に立って執筆した論文を3部提出すること。ただし、使用言語は日本語か英語に限る。</p> <p>3 『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も日本語による要旨(2,000字程度)3部を添えて提出すること。</p> <p>4 『研究計画書』 大学院入学後、修士課程在学中の研究計画を具体的に記したものを3部提出すること。</p>	<p>イ左記2に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の場合：本文、注 ワープロまたは手書き、28,000字程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 ・英語の場合：本文、注 ワープロまたはタイプうち、7,000語程度。ただし、引用文献表、図表等はこれに含まない。 <p>ロ左記4の研究計画書は、日本語あるいは英語でA4判用紙1枚(片面)にまとめること。書式は特に指定しない。</p>

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1『論文』 各自得意とする主題によって学術的な論文を作成せよ(出身大学の学部卒業論文に扱った主題でよいが、それ以外の主題を選んでもよい)。それを6部提出すること(すべてコピーでよい)。</p> <p>2『研究計画書』 上記1の論文のほか、大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」を6部提出すること。</p>	<p>イ左記1に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語でA4判の400字詰原稿用紙20枚以上30枚以内とする。注も全体の分量に含める。ただし、本文・注ともに自筆の手書きによるものとする。縦書きでも横書きでもよい。参考文献一覧(ワープロ可)、図版・図表・譜例等(合わせて15点以内)を付する場合は、A4判用紙5枚以内にとどめる。 <p>ロ左記2の研究計画書(ワープロ可)は、日本語で、A4判用紙を使用し、1,200字程度とする。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1『論文』 各自得意とする主題によって学術的な論文を作成せよ(出身大学の学部卒業論文に扱った主題でよいが、それ以外の主題を選んでもよい)。それを6部提出すること(すべてコピーでよい)。</p> <p>2『研究計画書』 上記1の論文のほか、大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」を6部提出すること。その際、大学院における研究成果を職業など、今後の社会生活にどのように還元することが可能であるかについての展望も付け加えること。</p>	<p>イ左記1に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語でA4判の400字詰原稿用紙20枚以上30枚以内とする。注も全体の分量に含める。ただし、本文・注ともに自筆の手書きによるものとする。縦書きでも横書きでもよい。参考文献一覧(ワープロ可)、図版・図表・譜例等(合わせて15点以内)を付する場合は、A4判用紙5枚以内にとどめる。 <p>ロ左記2の研究計画書(ワープロ可)は、日本語で、A4判用紙を使用し、1,200字程度とする。</p>
外国人出願者	<p>1『論文』 各自得意とする主題によって学術的な論文を作成せよ(出身大学の学部卒業論文に扱った主題でよいが、それ以外の主題を選んでもよい)。それを6部提出すること(すべてコピーでよい)。</p> <p>2『研究計画書』 上記1の論文のほか、大学院入学後の研究計画を具体的に述べた「研究計画書」を6部提出すること。</p>	<p>イ左記1に該当する論文について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語でA4判の400字詰原稿用紙20枚以上30枚以内とする。注も全体の分量に含める。ただし、本文・注ともに自筆の手書きによるものとする。縦書きでも横書きでもよい。参考文献一覧(ワープロ可)、図版・図表・譜例等(合わせて15点以内)を付する場合は、A4判用紙5枚以内にとどめる。 <p>ロ左記2の研究計画書(ワープロ可)は、日本語で、A4判用紙を使用し、1,200字程度とする。</p>

地域文化研究専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1『論文』 平成30年3月卒業見込みの者で、広い意味で地域文化研究に関する卒業論文又はそれに準ずる論文を書いた者は、それを3部提出すること。</p> <p>2上記1以外の者は、現在もっとも関心を持っている研究課題について、地域文化研究の見地に立って論文にまとめたものを、3部提出すること。</p> <p>3『論文要旨』 上記1、2いずれの場合も、論文が日本語の場合は、外国語による要旨を3部、論文が外国語の場合は、日本語による要旨を3部添えて提出すること。</p> <p>4『研究計画書』 大学院入学後の研究計画を具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ左記1、2の論文が、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、アラビア語以外の外国語の場合、日本語による全訳を3部提出すること。</p> <p>ロ論文が卒業論文又はそれに準ずる論文でない場合、A4判用紙を使用し、日本語で概ね12,000字以上、又は外国語でそれに相当する分量(たとえば、英語の場合概ね4,000語以上)とし、目次、注、参考文献表を必ず付けること。なお、目次、注、参考文献表、資料などは字(語)数に含めない。</p> <p>ハ左記3の論文要旨は、A4判用紙3～5枚程度とする。外国語による要旨は、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、韓国朝鮮語、ヒンディー語、アラビア語、古典ギリシア語、ラテン語のいずれかによるものとする。</p> <p>ニ左記4の研究計画書は、地域文化研究専攻ホームページ(http://ask.c.u-tokyo.ac.jp/researchplan.html)から様式をダウンロードし、そこに書かれた指示に従って日本語で2,000字程度で作成すること。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題について、地域文化研究の見地に立って論文にまとめたものを、3部提出すること。</p> <p>2『論文要旨』 上記1の論文が日本語の場合には、外国語による要旨を3部、論文が外国語の場合には、日本語による要旨を3部添えて提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 上記1、2のほか、大学院入学後の研究計画を具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ左記1、2とも、使用言語、字(語)数、体裁、枚数などについては、一般出願者の規定に準ずるものとする。</p> <p>ロ左記3の研究計画書は、地域文化研究専攻ホームページ(http://ask.c.u-tokyo.ac.jp/researchplan.html)から様式をダウンロードし、そこに書かれた指示に従って日本語で2,000字程度で作成すること。</p>
外国人出願者	<p>1『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題について、地域文化研究の見地に立って論文にまとめたものを、3部提出すること。</p> <p>2『論文要旨』 上記1の論文には、外国語による要旨を3部提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 大学院入学後の研究計画を具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ左記1の論文は、A4判用紙を使用し、原則として、日本語で概ね12,000字以上とする。</p> <p>ロ左記2の論文要旨は、A4判用紙3～5枚程度とし、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、韓国朝鮮語、ヒンディー語、アラビア語、古典ギリシア語、ラテン語のいずれかによるものとする。</p> <p>ハ左記3の研究計画書は、地域文化研究専攻ホームページ(http://ask.c.u-tokyo.ac.jp/researchplan.html)から様式をダウンロードし、そこに書かれた指示に従って日本語で2,000字程度で作成すること。</p>

※なお、口述試験の際に、提出論文の内容と入学後の研究計画を、最初の3分間で要約して述べることが求められる。

国際社会科学(国際関係論)専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1『論文』 a 国際関係研究に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がある場合は、それを3部提出すること。 b 国際関係研究に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がない場合は、現在もっとも関心を持っている研究課題について、国際関係研究の見地から論文をまとめ3部提出すること。卒業論文やそれに準ずる論文があっても、テーマが国際関係研究から外れていたり、執筆時期がかなり以前であることによって、国際関係研究に関する現在の研究能力を示すことができない場合も同様とする。</p> <p>2『論文要旨』 上記1の『論文』には、日本語による要旨(4,000字以内)を3部添えて提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 上記1、2以外に、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語のいずれかによるものとする。 ロ左記1bに該当する論文を提出する者は、日本語及び中国語の場合は、20,000～40,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙を用いること)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)30～50枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題を、国際関係研究の見地にたつて論文にまとめ、3部提出すること。</p> <p>2 上記1以外に、国際関係の研究に関連する論文又はレポートなどで参考になるものがあれば、それもあわせて3部提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできるかぎり具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語のいずれかによるものとする。 ロ左記1の論文は、日本語及び中国語の場合は、8,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙20枚程度)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)10枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
外国人出願者	<p>1『論文』 a 国際関係研究に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がある場合は、それを3部提出すること。 b 国際関係研究に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がない場合は、現在もっとも関心を持っている研究課題について、国際関係研究の見地から論文をまとめ3部提出すること。卒業論文やそれに準ずる論文があっても、テーマが国際関係研究から外れていたり、執筆時期がかなり以前であることによって、国際関係研究に関する現在の研究能力を示すことができない場合も同様とする。</p> <p>2『論文要旨』 上記1の『論文』には、日本語による要旨(4,000字以内)を3部添えて提出すること。</p> <p>3『研究計画書』 上記1、2以外に、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べた研究計画書(日本語)を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語のいずれかによるものとする。 ロ左記1bに該当する論文を提出する者は、日本語及び中国語の場合は、20,000～40,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙を用いること)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)30～50枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>

国際社会科学(相関社会科学)専攻

対象者	提出課題	備考
一般出願者	<p>1 『論文』 a 相関社会科学に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がある場合は、それを3部提出すること。 b 相関社会科学に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がない場合は、現在もっとも関心を持っている研究課題について、相関的な社会科学の見地から論文をまとめ3部提出すること。卒業論文やそれに準ずる論文があっても、テーマが相関社会科学から外れていたり、執筆時期がかなり以前であることによって、相関社会科学に関する現在の研究能力を示すことができない場合も同様とする。</p> <p>2 『論文要旨』 上記1の『論文』には、日本語による要旨(4,000字以内)を3部添えて提出すること。</p> <p>3 『研究計画書』 上記1、2以外に、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のいずれかによるものとする。 ロ左記1bに該当する論文を提出する者は、日本語、中国語及び韓国朝鮮語の場合は、20,000～40,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙を用いること)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)30～50枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
社会人特別選拔出願者	<p>1 『論文』 現在もっとも関心を持っている研究課題を、相関社会科学の見地にたって論文にまとめ、3部提出すること。 2 上記1以外に、相関社会科学に関連する論文又はレポートなどで参考になるものがあれば、それもあわせて3部提出すること。 3 『研究計画書』 大学院入学後の研究計画をできるかぎり具体的に述べた研究計画書を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のいずれかによるものとする。 ロ左記1の論文は、日本語、中国語及び韓国朝鮮語の場合は、8,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙20枚程度)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)10枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>
外国人出願者	<p>1 『論文』 a 相関社会科学に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がある場合は、それを3部提出すること。 b 相関社会科学に関する現在の研究能力を示す卒業論文又はそれに準ずる論文がない場合は、現在もっとも関心を持っている研究課題について、相関的な社会科学の見地から論文をまとめ3部提出すること。卒業論文やそれに準ずる論文があっても、テーマが相関社会科学から外れていたり、執筆時期がかなり以前であることによって、相関社会科学に関する現在の研究能力を示すことができない場合も同様とする。</p> <p>2 『論文要旨』 上記1の『論文』には、日本語による要旨(4,000字以内)を3部添えて提出すること。</p> <p>3 『研究計画書』 上記1、2以外に、大学院入学後の研究計画をできる限り具体的に述べた研究計画書(日本語)を3部提出すること。</p>	<p>イ提出論文は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のいずれかによるものとする。 ロ左記1bに該当する論文を提出する者は、日本語、中国語及び韓国朝鮮語の場合は、20,000～40,000字程度(手書きの場合は、400字詰原稿用紙を用いること)とし、欧文の場合は、タイプ又はワープロによりA4判用紙(1枚25行程度)30～50枚程度とする。 ハ左記3の研究計画書は、日本語で、A4判用紙使用2,000字程度とする。</p>